『世界の日本語教育』9, 1999年6月

「～なか」と「～うち」について

大 島 弘 子*

キーワード: なか，一点集中的，うち，そと，対比的

要 旨

「～なか」と「～うち」の違いをできるだけ分かりやすく日本語学習者に説明できるように，具体例を用いながら「～なか」と「～うち」が実際にどのような助詞と共に用いられるのかを整理した(なかの独立用法，～なかで，～なかでは，～なかでも，～なかから，～なかに，～なかには，～なかを，～なかは，～なか，～なかの，うちの独立用法，～うちで，～うちから，～うちを，～うちに，～うちは，～うち，～うちの)．そして，それぞれについて，独立用法で見られる特質が，助詞と結合した表現にまで受け継がれていることを見た．結論としては，「～なか」は一点集中的で焦点をあてて中心を作るという点が色々な用法の基盤であり，対するに「～うち」は対比関係が共通の基盤になっていることが，抽出できた．

はじめに

「～なか」と「～うち」は，何か(それは，物理的な空間であったり，もっと抽象的な事態であったり，一つの範囲となる複数の物の集合体であったりする)の内部を表わすという共通の意味を有するが，置き換えられない場合も多く，その違いを中級，上級日本語学習者に明確に説明するのは容易ではない．それで，既に先行研究も多いけれども[1]，ここでは，具体例を用いながら，「～なか」と「～うち」が実際にどのような文型の中で使われることが多いのかという点に注目し，それらの文型の用法はどのようなものか，又，「～なか」と「～うち」とが同じ文型で使われる場合には，二つの用法の違いは何かという点を考察したい．具体的には，まず「～なか」を

* OSHIMA Hiroko: オルレアン大学文学部外国語学科助教授．

[1] 参考文献を参照．森田(1996)は，意味分析を行うにあたって理論的な参考になった．「なか」と「うち」を他の表現と比較しているものに，久野(ないうちに，前に)，国広(うちに，前に，間に)，渡辺(うち，そと，なか，あいだ)がある．牧野，森田(1989)，日野は，「なか」と「うち」の違いについて興味深い言及をしており，その考察を基礎土台にしてこの稿に至る考えが発展した．特に，日野の上代，中世の実証的な研究から導き出された考察はこの稿の結論と重なるところがあり，大いに啓発された．

次に来る助詞によって分類整理し，それぞれの用法の特徴に言及し，下位分類などを行う．その後，「～うち」を扱い「～なか」の用法と比較する．又，文型の考察に入る前に，それぞれの独立用法としてはどのようなものがあるか，どのような熟語の構成要素として頻繁に使われるかなども，概観したい．

1. 「～なか」

1-1. 独立用法，熟語

「～なか」は，一般的には，上に述べたように，「何かの内部」を意味し，たとえ，例1，例2のように「なか」の「～」の部分に来るものが言語化されていなくても，意味としては「何かのなか」であり，その「何か」が文脈から特定できるのが普通である(ここでは，家のなか，スタジオのなか).

例1) 今夜必ず行くから，中に入れてね (ゆが)[2]

例2) スタジオには，明りがついていないようだったから，留守かと思いながらノックするとドアは，中から黙って開けられた．(意外)

「何か」の部分が意味的にも全く存在しない用法(独立用法)と言えるのは，例3の様な場合のみであろう．この例は，縦に三枚並んでいる写真の説明である．

例3) 上は紡績業，中は製鉄業，下は造船業 (図説)

ここで意味されるのは，「写真の中」ではなくて，むしろ「中(真ん中)の写真」であろう．しかし，このような例であっても，「なか」は「なか」だけで成り立つわけではなく，上下，又は，左右があって，初めて「なか」と言える．

次に，熟語の構成要素として「なか」が現われる場合を見てみよう．「なか～」という形で頻繁に出てくるのが，次の様な時間的用法である．

例4) 昭和30年代の中頃 (図説)

「ころ」は普通「九時」のような時を表わす名詞について「九時頃」などのように「大体」という意を添える接尾辞であるが，ここでは「昭和30年代のなか」「8世紀のなか」「7月なか」などの時間的用法が不可能であることから，「中頃」で一つのブロックとして機能していると思われる．そして，意味的にも，昭和30年代に属する(の内部の)期間の全体を表わすのではなく，昭和30年代の「真ん中辺り」のみを表わす．この稿では，これを仮に「(中央)焦点化」の用法と呼ぶことにする．つまり，大きい範囲の全体の中から中心部分に近い所だけに焦点をあてる用法という意味である．

---

[2] 例文の中では，原文の表記に従い，「なか」「中」「うち」「内」を使い分けた．又，各例文の後の( )内に，その出典の略称を示す．

これ以外にも，「(中央)焦点化」の用法と呼べる熟語として，例5，例6の様な例が見つかる．

例5) 18世紀中葉 (図説)

例6) 浅草名物の凌雲閣十二階も中ほどからくずれおちてしまうほどの激震だった．(図説)

次に，「～なか」の形の熟語を探すと，「世の中」「背中」「夜中」の三語が多用されることに気付く．ここで，興味深いのは，これらの語は，「なか」を取り去った前半部分だけでもほとんど同じような意味を表わせるということである．「世」と「世の中」，「背」と「背中」，そして「夜」と「夜中」等は，どう違うのだろうか．二番目の「～なか」をつけた語の方が，「～なか」なしの語より指示範囲が限定されているように感じられる．「世の中はそんなに甘くない，世の中も変わった」などと言う時は，自分又は相手が直接関わりをもって生きている場を指し，「この世」，「あの世」などという時は個人的関わりを超えたもっと広い世界を指しているのではないだろうか．「背中を掻く」とか「背中に入れ墨をする」と言えば，「背を向ける」と言う時よりも，体の中で指示範囲がもっと限定され具体的になるように感じられる．「夜」は，暗くなってから明るくなるまでの時間全体を指すのに対し，「夜中」は，夜の中でも一番闇の深いと思われるような時間帯(夜たけなわ，ピーク)のみを表わすと言えるのではないか．

このように考えてくると，例7の「町中」も同じように説明できる．

例7) こんな緑の少ない町中でも，蜂さんはせっせと花を見つけて，年に20キロ近くの蜂蜜を提供してくれるというから驚きだ．(オヴ)

この例で「町中」は，ただ単に町の内部を意味するのではなく，町の中の中心部に近いにぎやかな場所を指す．言い換えれば，町のはずれの方は，たとえ住所が町内であっても，「町中」とは言えない．

これらも，「中頃」の所で見たのと同じ様な「(中央)焦点化」の用法と呼べるのではないだろうか．

1-2. 「～なかで」

次に，「～なか」が実際にどの様な文型の中で使われるか見て行こう．「～なか」が助詞「で」と一緒に「～なかで」という形で使われる例は多数見つかるが，これらは，大きく二つのグループに分けられる．ここでは，それを仮にAタイプ，Bタイプと呼ぶが，以下に述べるように，結局は連続した用法であると思われる．

1-2-1. Aタイプ

「～なかで」が，文の述部で述べられていること(動作，状態，できごと，等)がその枠組みの中でのみ成り立つ，というような枠組みを述べる要素として機能している場合である．次の四つの例が示すように，その枠組みは具体的な場所である場合もあるし，もっと抽象的で，場所とい

うよりは，状況という方が適当な場合もあるが，ここでは，状況要素として一括する．

例 8) 道元は「正法眼蔵」という本のなかで，そのような禅の悟りについてくわしく述べている．(図説)

例 9) しかし，このような高度成長は，日本社会のなかで，いろいろな問題をおこしました．(図説)

例 10) このような幕政の危機のなかで，西南日本の大藩を中心にして，尊王攘夷のうごきがたかまりました．(図説)

例 11) 列強が不安な目で見るなかで，日本軍の行動は，すばやくめざましかった．(図説)

1-2-2. B タイプ

上に，A タイプでは「～なかで」が，述語の表わす動作，状態等の成立の枠組みを表わしている，としたが，「枠組みを述べる」ということは，言い換えれば，「ある範囲に限定する」ということでもある．そこで，B タイプに通じるのであるが，B タイプは，「～なかで」が状況というよりも，ある範囲を表わし，その範囲の中のある物(複数のこともある)が特に注視される用法である．

まず，B タイプの中でも，A タイプから連続するものとしては，例 12 があげられる．

例 12) それでもフランスは，ヨーロッパの中でスウェーデンに次いで結婚率が低い国だ．(フラ)

この例では，「ヨーロッパの中で」は，場所であると同時に限定された範囲としても機能し，例 12 は，その中の一国であるフランスがフォーカスされた表現だ，と言えるのではないか．

典型的な B タイプとして考えられるのは，次の様な例である．

例 13) (三浦義村は)承久の乱では，関東武士のなかで，御鳥羽上皇からもっともたよりにされながら院宣に応じなかった．(図説)

例 14) このころは，子供のなかで，男子が一人だけ家をつぐことになっていました．(図説)

例 15) 巨石巡りをしてブルターニュ中をドライブしたのが，フランス国内の旅行の中で一番印象に残っています．(フラ)

この中で，範囲を示す「関東武士のなかで」「子供のなかで」「フランス国内の旅行の中で」は複数要素で構成される一つの集合体である．実際に，その集合体が複数のものからなることを言語化した要素が現われることもある．(例，いろいろな戦争のなかで，アジアの国々のなかで，一連の改革のなかで，等)．そして，これらは，その集合体の中のある物に(三浦義村，男子一人，ブルターニュ巨石巡りドライブ旅行)特別な注意が集められた用法である．

このような例のもう一つの特徴は，あるグループの中からある物に焦点をあてて，その物に特

殊性を与えるための語彙が頻繁に使われることである(例，一番，特に，ずばぬけて，初めて，ただ一人，だけ，等).

1-3. 「～なかでは」

「～なかでは」という形でも，Aタイプと Bタイプが観察される.

1-3-1. Aタイプ

例 16) 無謀なことをやったなあと，我ながら思うんですが，あの経験は自分の中では大きいものです. (Vi)

例 17) 姉さんと自分だけで育ったために，家庭の中ではひとり息子で甘やかされて育った. (秘密)

「自分の中では」「家庭の中では」は，「～なかで」のAタイプで見たのと同じように，述語の表わす動作，状態等の枠組みを述べる要素として機能している. 違うのは，「は」が付加された時，この枠組みが，他の枠組みと対比的に用いられていることだけであろう(自分⇔他人，家庭の中⇔家庭外の場所).

1-3-2. Bタイプ

例 18) また会社事業の中では，株式会社組織のものが，いちばん多い. (Ja)

例 19) 重臣たちのなかでは，北条氏の力が一段と強まり，その上にたって政子も尼将軍といわれるほどの権力をもつようになった. (図説)

「会社事業の中では」「重臣たちのなかでは」は，既に「～なかで」のBタイプの典型的なものとして見たのと同じ様に，複数で構成される一つのグループ範囲として，そのグループの中のある物に特別に注意を集める用法である.

このBタイプの用法で，「～なかでは」という時は，「～なかで」という時とどのように違うのだろうか. ここに取り上げた例の直前の部分を調べてみても，Aタイプの時程に明らかな対比関係は見つからない. しかも，例 18 では「は」がなければ変だし，例 19 では，なくてもさほどおかしくはない. 興味深い問題であるが，「～なか」と「～うち」の比較が目的のこの稿では，「は」の問題は直接関係がないので，これ以上立ち入らない. ここでは，ただ，「～なかで」の所で見た二つのタイプが，「～なかでは」となっても，同じように観察できるということを強調したい.

1-4. 「～なかでも」

次に，「～なかでも」という形では，どんな用法が観察できるか見てみよう. やはり，「～なか

でも」が状況要素として機能しているAタイプと，その内部から何かを特別に選んで言及する範囲として機能しているBタイプがあり，その二つの間には，全く別の用法とは言えないような連続性が感じられる．

1-4-1. Aタイプ

「～なかでも」のAタイプには二つあって，一つ目は，例20の様に「(Pの状況でも)Qの状況でも，同じように，以下に述べることが適用できる」という意味で使われる

例20) 家族の中でも，あるいは親しい集団の中でも，かなりプライベートな内面まで共有しあいながらもっとお互いが未分化な情緒的な雰囲気の中で暮らしていた．(秘密)

二つ目は，次の二つの例の様に，「Qの状況においてさえ，以下に述べることが成り立つ」という意味で使われる．

例21) しかし，はげしい変化のなかでも，古い時代からいきつづけ，かわらないものもあります．(図説)

例22) 長期不況の続く中でも西洋アンティークの店は開業ブーム．(オヴ)

この二つ目の用法では，「Qの状況」の特殊性が強調されるため，畢竟，「その状況の中でさえ成立する事態」も特別なこととして強調され注目を浴びることになる．そして，この前者と後者の両方に与えられる特殊性という点で，「～なかでも」のBのタイプに繋がっていくのではないかと思われる．

1-4-2. Bタイプ

例23) 自動車の中でもディーゼル車が大気汚染の主犯であることは周知の事実だ．(フラ)

例24) 20区の丘にあるペール・ラシェーズ墓地は，パリの墓地の中でも一番歴史が古く，広々とした敷地にマロニエやプラタナスの大樹が茂る．(フラ)

例25) 平安時代に摂関政治を行ったのは，藤原氏のなかでも北家であった．(図説)

例26) 〈敦盛最期〉は，平家物語全編の中でも，特にもの思わせるくだりだ．(図説)

上の例では，複数の物を含む一つのグループ(自動車，パリの墓地，藤原氏，平家物語全編)が範囲となり，その範囲の中から，特にある物(ディーゼル車，ペール・ラシェーズ墓地，北家，敦盛最期)に焦点をあてて，言及している．ここまでは，「～なかで」のBのタイプと同じであるが，「～なかでも」という時は，その範囲(に含まれるもの全て)が既にある特別な意味(特殊性)を与えられている．そして，その中でも特にその特殊性が強いものが注目されているわけである．つまり，例23では，自動車一般は既に，大気汚染を引き起こす犯人なのであるが，その中でも，特にディーゼル車がその程度が高い物として注目を浴びているわけである．それ故「主犯」という言葉が使われている．同様に，例24では，パリの墓地はすべて歴史が古いが，一番

古いのはペール・ラシェーズ墓地だというふうに理解される．以下も同様に解釈できる．

1-4-3.「なかでも」の独立用法

「～なかでも」の「～」の部分が消えて，「なかでも」だけで，使われている例も多数見つかった．

例 27) いっぽう，各地の藩では，藩政改革にとりくみましたが，なかでも，西南日本の大藩はとくにねっしんでした．(図説)

例 28) 仏教の普及には，唐から帰った留学僧や渡来した僧が大きな働きをしたが，中でも鑑真は著名である．(図説)

これらの例では，「～なかでも」の B タイプにおいてはっきり言語化されていた範囲が，曖昧になり，文脈の前後関係の中でのみ解釈可能になっている．例 27, 28 では，「藩政改革にとりくんだ藩のなかでも」「仏教の普及に大きな働きをした唐から帰った留学僧や渡来した僧のなかでも」という様な解釈が可能であろう．その範囲の中で特にある物に焦点をあてているという点では，変化はない．範囲全体がおっていた特殊意味合いも，「ほとんどの藩が藩政改革に取り組んでいるのだが，そのなかでも．．．」「唐から帰った留学僧や渡来した僧はほとんどが仏教の普及に大きな働きをしたのだが，そのなかでも．．．」というふうに解釈すれば，保持されていると言うことができる．

例 29) この 20 年間で 50% 増え，フランスは自殺件数で世界上位に．中でも 55 歳以上の男性の自殺が 7 割をしめている．(フラ)

例 30) 建築展〈1920～30：世界恐慌から戦争までの変動期に，ベルリン，パリ，モスクワ，NY と，各都市で考案されたものの実現されなかった膨大な建設計画を，当時支配していたイデオロギー，政治背景と照らしあわせて模型と写真で展示．中でもシカゴを中心に活躍したフランク・ロイド・ライト構想の〈Broadacre City〉の模型は圧巻．(オヴ)

例 29, 30 においては，「なかでも」の独立の程度はもっと高く，接続詞のように使われている．「フランスでは，全年齢層で自殺者が多いのであるが，その自殺者のなかでも」「この建築展に展示された作品は，どれも素晴しいものであるが，そのなかでも」という解釈はかなり苦しいとはいえまだ可能であるので，「～なかでも」の B タイプと連続したものだということは言えるが，むしろ，この範囲を設定する意味合いはだんだん消えていき，「特に」に近い意味で使われているのではないだろうか．つまり，「(前文と関係した)何かに焦点をあてる」という用法に変化しているのではないかと考えられる．

1-5. 「～なかから」

次に，「～なかから」となる用法を見よう．「～なかから」の用例を集めると，それに続く部分の述語に一定の傾向があることが分かる．ここでは，この動詞の傾向によって，「～なかから」を二つのタイプに分けるが，この二つのタイプは結局は連続したものであると思われる．

1-5-1. 第一タイプ

このタイプに頻繁に現われるのは，「生まれる，立ち上がる，出る，抜きんでる」の様な動詞で，ここでは，出現動詞として一括する．「P のなかから，Q が出現する」というふうに使われる．

例 31) 長い間きびしい差別のなかで過ごし，明治の新しい時代をむかえてもなお改善されることのなかった苦しい境遇のなかから被差別部落の人たちが立ち上がって，大きな前進の一歩をしるしたのである．(図説)

例 32) この激動の時代の中から，それまでには見られなかった新しい芸術や思想が生まれた．(図説)

上の例では，P は広い意味での状況を示しているが，次の例では，状況というより，複数の構成要素からなる集合体になっている．

例 33) 16 世紀の後半，たたかっていた戦国大名のなかから，全国を統一しようとする者がでてきました．(図説)

例 34) アヘン戦争 (1840～42) は，長崎の出島のオランダ商館長が提出していた「オランダ風説書」などによって日本に伝えられ，危機感を抱いた幕閣の中から，軍制の改革を試みた江川太郎左衛門などが出た．(図説)

例 35) 戦国大名たちは，全国統一を目指して対抗した．その中から抜きんでたのは，尾張に拠点をもっていた織田信長である．(図説)

「P のなかから，Q が出現することを示す表現」は，言い換えると「無の状態，又は目立たない状態であった Q が注目を集める状態になる」ことを意味する表現であり，Q 自体への注目が強まると例 34, 35 の様に「ある範囲の中のある物を特に注視する用法」となるのではないか．つまり，上述した「～なかで」「～なかでは」「～なかでも」の B タイプと類似の表現になるのではないかと思われる．

1-5-2. 第二タイプ

このタイプによく現われるのは，「当てる，選ぶ，指名する」等の何かに焦点をあてるフォーカス動詞である．

例 36)　これは，中国からもってきた珍しい品物や道具をならべた席で，いろいろな茶のなかから特定の茶を飲み当てる遊びであった．(図説)

例 37)　しかしながら，桂内閣はたおされたけれども，元老が中心になって古い勢力のなかから，首相を指名する習慣までは改めることができなかった．(図説)

例 38)　万年筆からアクセサリーまでモンブランの全製品の中からお選び頂けます．(オヴ)

「いろいろな茶のなか」「古い勢力のなか」「モンブランの全製品の中」は，選択の範囲である．そのなかから，ある者を特に選び出すわけで，上述した B タイプと類似の表現だと言っても良いのではないか．

1-6.「～なかに」

次に「～なかに」の文型を見ると，後続する述語としては色々の種類のものが観察される．ここでは網羅的な分析をする余裕はないが，ざっと見ただけでも，おおまかに 6 種類ぐらいに分類できるように思われる．

1　混入型　例)　入る，入れる，滑り込む，突っ込む，乗り入れる，取り入れる，侵入する，混入する，吸収される，紛れ込む，巻き込まれる，盛り込む，加える，等

2　接近型　例)　近付く，しのびよる，繋がる，戻る，到着する，等

3　普及，発展型　例)　広がる，流れる，伸ばす，根付く，等

4　存在型　例)　いる，ある，見える，潜んでいる，含まれている，隠されている，浮かんでいる，混じっている，飾られている，等

5　出現型　例)　出てくる，宿る，生じる，生まれる，等

6　表出型　例)　表わす，描く，込める，作り出す，計上する，等

しかし，意味的に二つの型にまたがる述語も少なくないことから，これらの述語には意味的に共通したものがあるように思われる．それは，その場所への密着性が強いということで，敢えて言うなら，この密着性とは「結果としてその場に存在すること」ということに還元されるのではないか．そうすると，4 の存在型が，「～なかに」文型の一番典型的なものと言うことができる．その例を見てみよう．

例 39)　私の家の近くに戸山が原があり，兵隊の連兵場になっていた．その中に三角山という小さな山があった．(秘密)

例 40)　乞食人の歌や「おそろしき物」を歌う歌もこの巻の中にみえる．(図説)

この用法の，「P のなかに」の P の部分が，複数の構成要素でできた集合体の場合，例 41, 42 43 の様な例が見つかる．

例 41)　護衛の中にマントを着た南蛮人の姿も見える．(図説)

例 42) 民謡的なうたの中に，創作的なものもいくらか含まれていると思われる．(図説)

例 43) 事件は犯人がわからないまま，真相は不明に終わったが，被告のなかに，共産党員の労組員が多かったため，共産党に対する風あたりがにわかに強くなり，事件の後，労働運動はこれまでのようなはげしさを失った．(図説)

上の例では，「見える」「含まれている」「多い」の様な述語で，ある範囲内にある物が存在することが語られている．そして，その存在提起により，その物に焦点があてられている．つまり，既に見た B タイプの用法と言えるのではないか．しかし「～なかで(は，も)」，「～なかから」の場合と異なり，「～なかに」の形での B タイプの用法は，非常に少ない[3]．

1-7. 「～なかには」

「～なかに」の形で使われることが非常に少なかった B タイプの用法は，「～なかには」という形になると，現われる頻度がずっと高くなる．述語には主として既に見た存在型の動詞，又は形容詞が現われることは，「～なかに」の場合と同様である(いる，ある，含まれる，多い，見られる，隠されている，あらわれた，等)．2 例のみを示す．

例 44) 農民のなかには家を捨てて逃亡する者が多かった．(図説)

例 45) これらのポルノビデオに関し尋問を受けた者の中には，聖職者 2 人，教員 8 人，公務員 15 人も含まれる．(フラ)

例 45 では，尋問を受けた者の内訳の説明がなされているのではなく，その中の一般に「かたい」とされている職業に従事している者の存在がクローズアップされているのである．

1-7-1. 「なかには」の独立用法

「なかでも」が独立した用法は既に見たが，「～なかには」も「～」の部分，つまり範囲(複数の構成要素からなる集合体)を表わす部分が，言語化されなくなって，解釈を文脈に依存するようになった例が見つかる．

例 46) いきり立つ人びとの波は，政府系の新聞社をおそい，石を投げ，印刷機をこわし，なかには火をつける者もいた．(図説)

例 46 では，「いきり立つ人びとのなかには，火をつける者もいた」と解釈されるが，「政府系の新聞社をおそい，石を投げ，印刷機をこわし」の後に，「なかには火をつける者もいた」と配置されていることから，火をつける者の特殊性が前者に比べて非常に強調されていることがわかる．つまり，「このようなひどい者までいた」というような意味に解される．

例 47) 医療に取り組む人の資質も大切だが，ケアにたずさわる人の資質も大切だ．なかに

[3] この違いは，畢竟，助詞「で」「から」「に」の機能の違いに還元できると思うが，この稿では，助詞の機能の比較は取り扱わない．

は感情の起伏がはげしく，「切れやすい」人もいる．(フラ)

例 47 で明示されていない範囲は「ケアにたずさわる人のなかには」であろう．ここでは，人の資質の大切さを述べるために，ひどい程度のはなはだしい例として「このようなひどい者までいる」という意味で述べられているのであろう．

次の二つの例では，もう，範囲を文脈から解釈するのが困難である．

例 48) しかし，実際には，そのように完全に自立していない人物も中にはがんにかかる．(フラ)

例 49) このようなおしゃべりの内容は，とりとめのないものも多いが，中には親密さと一体感を促進する上で，ついついだれにも語らない本音を語り，その瞬間の一体感を得るためにだれにも知らない秘密をうちあけがちになる．

ここでは，「時にはこういうこともある」というような特殊な場合の可能性の存在を示す表現になっているのではないかと思われる．つまり，「～なかには」文型の「(ある範囲の中から)，何か一つの存在を浮き彫りにして強調する」の後半部分のみが残った用法だと考えられる．

1-8. 「～なか」の結論

以上，「～なかで」「～なかでは」「～なかでも」「～なかから」「～なかに」「～なかには」の用法を概観したが，筆者が B タイプと呼ぶ，ある範囲の中のある物を特にフォーカスする用法が，共通して見られることがわかった．「～なかでも」「～なかには」の独立した用法でもこの「焦点をあてる」という点は保持していることも観察した．

この範囲となるのは複数の構成要素からなる集合体であるが，その中の他の構成要素はすべて無視され，一点のみに光が当てられる．つまり，「なか」の内部構造は，一点集中的であると，言っても良いのではないか．排他的だとも言えるかもしれない．そして，浮き彫りにされた所が「中心」になるのである．このように考えると，「中頃，中ほど，夜中，町中」などの「なか」を含む熟語が「真ん中辺り」を示すのも意味のないことではないと思う．

なお，「～なかの」「～なか」「～なかを」という形もあるが，「うち」との比較の所で扱うので，**1.** では，取り上げなかった．

2. 「～うち」

2-1. 独立用法，熟語

次に，「～うち」の独立用法を見てみよう．「何かの内部」を意味する場合は，たとえ，「～」の部分に来るものが言語化されていなくても，その「何か」が文脈から特定できること，「なか」の場合と同様である(例 50 では，国のうち．例 51 では，家庭のうち)．

例 50) このため，浜口内閣は，外に平和外交を進めるとともに，内では不景気のなかにしずみきった経済の立て直しに力を注いだ．(図説)

例 51) 内に留まって家庭を支えるべき妻が外に出ているのだから，当然家庭は荒廃する．(意外)

ただし，ペアを持たない「なか」の場合と違って，上の例が示すように「うち」は，「そと」とペアになっている．つまり，意味的に対比関係にある．

また，「うち」の独立用法には，「家庭(内)」を意味する用法があり，そこに属する家族は，「うちのひと，うちの息子」の様に表現される．この用法が拡大され，「家庭的な繋がりで結び付いている集団(内)」を示すようになり，「うちの会社，うちの組」等のように使われる．

例 52) それは，ヨソの人に知られて恥ずかしいウチの中の秘密である．(秘密)

この用法では，「うち」「よそ」という対比関係になる．以上のことから「うち」は常に何らかの対比関係のなかに存在する概念であると言えよう．

次に，「うち」を内部に含んだ語彙をざっと捜すと，次のような物が見つかった．内側，内輪，内弁慶，内々，内ポケット，内訳，内庭，内コース，内柵，内枠，内幕，身内，仲間内．これらも，ほとんど，「うち」「そと」か「うち」「よそ」の関係で説明しうる語彙ではないだろうか．実際に対立関係が明示されている例を以下に示す．

例 53) このようにして，一つのグループの中にも，内輪とよそ者の境界線が次第に複雑に形成されていく．(秘密)

例 54) R 君には，内々の親密な世界を超えて，外に開かれた社会的空間が小さいときから心の中につくられていなかったのである．(秘密)

例 55) すでに述べた内輪とよそ者を絶えず区別し，自分が相手にとってよそ者か内輪の身内なのかを識別しようとする感覚，あるいは相手を自分の側から身内かよそ者か判断しようとする感覚もその一つである．(秘密)

例 56) 内コースが空くのは見えたが，プチの力があれば，大外に回っても，十分に追い込めるはずであった．(意外)

2–2. 「～うちで」

「～なかで」の所で見たAタイプ，Bタイプは，「～うちで」という形でも同様に観察される．

2–2–1. Aタイプ

「～うちで」が，述語に述べられることの状況要素となる場合である．「～なかで」のAタイプは，多数見つかったが，「～うちで」のAタイプは，次の2例のみで，どちらも場所を表わす場合である．

例 57) 千春は胸の内でつぶやいた.(ゆが)

例 58) 映子は室内全体をそれとなく見渡し,心の内でため息をついた.(ゆが)

心の奥深く人に分からないように,外へもれないように,そっと何かをするというような場合は,「～なかで」より「～うちで」がしっくりするようである.言い換えれば,心の内部が,(他の外から見えるような場所と比べて)秘められた特別な場所として扱われている場合である.そのようなニュアンスが薄く,心の内部も単なる一つの場所のように扱われている次のような例では,「心のうちで」とはしにくい.

例 59) 作品を通して差し込んでくる光は,皆さんの心の中で変化していくのだと思いますよ.(Vi)

2-2-2. B タイプ

「～うちで」が,複数の構成要素からなる範囲を示し,その中の一つに焦点を当てて強調する用法で,「～なかで」の場合と同様である.しかし,異なるのは,範囲の構成要素の数が限られて,特定できるような場合は,次の例のように「～うちで」の方が使われることである.

例 60) 後者:二つならべて言ったもののうちで,後の方のもの.(広辞)

例 61) 食生活:生活のうちで食べる方面に関すること.(広辞)

2-3. 「～うちから」

2-3-1. 第一タイプ

「～なかから」の第一タイプは,「P のなかから,Q が出現することを示す表現」で,「生まれる,立ち上がる,出る,抜きんでる」の様な出現動詞が現われることを見た.「～うちから」の場合も,例数は少ないが,類似の表現が見つかる.

例 62) 無産者として社会の下積みにされていた階級のうちから,新しい元気と精気とが発散され,新しい活動と創造との力を生み,国の命となり社会の柱となって,無限の基礎を固め国運をひらいてゆくであろう.(図説)

例 63) 其処に居並んでいる百に余る青年は,皆自分の意志に依っては,水火をも辞さない人々であることを思うと,彼は心の内から,こみ上げてくる権力者に特有な誇を,感ぜずにはいなかった.(藤十)

しかし,出現動詞と「発散される,込み上げてくる」の様な動詞は,同じ「現われる」という意味でも,現われ方が少し違うような気がする.いわば,前者は「無の状態,又は目立たない状態であった Q が一点突出する」といった現われ方で,後者は「Q が内と外との境界を超えてあふれ出して来る」といった現われ方である.つまり,「うち」という言葉で仕切られた世界は,常に外と繋がった形で認識されるのではないか.

2-3-2. 第二タイプ

「～なかから」の第二タイプは，「ある範囲の中から，ある物を特に選び出す表現(Bタイプ)」で，「当てる，選ぶ，指名する」等のフォーカス動詞が現われた．「～うちから」でも，類似の表現が存在する．ただし「～うちで」の所で見たのと同様に，範囲の構成要素が明白な場合は，「うち」の方が「なか」より現われやすい．

例 64) そこで，つぎの将軍は義持の兄弟四人のうちから，くじを引いて決めることになった．(図説)

2-4. 「～うちを」と「～なかを」

「～なかを」の用法のうち，次の二つは，「～うちを」では見つからなかった．例 65 は状況を表わす場合，例 66 は「旅行する，歩く」等の動詞と共起する場所の場合である．

例 65) 義経勢は暴風雨のなかを，摂津から阿波にわたった．(図説)

例 66) 外国人も 1899 年からは現在のように日本の国のなかを自由にあるくことができるようになりました．(図説)

「～を」が目的語の例は，「～なかを」も「～うちを」も見つかった．しかし，「～なかを」の場合は色々な種類の目的語を取りうるが，「～うちを」の場合は非常に限られているようで，筆者の見つけた例は「心のうちを」ばかりである(例，心の内を語る，見透かす，打ち明ける，等)．中に秘められていたものを外へ明らかにする様な場合であろう．これらの場合は「～うちを」がしっくりする．「知っている」という述語では，「心のなかを」と「心のうちを」の両方の例があるので，比べてみたい．

例 67) 自分が何にも言わなくても親は何でも自分の心の中を知っている．(秘密)

例 68) 両親は僕の心の内を知っているに違いない．(秘密)

上の例では，既に何でも知られていると本人が意識する「心の中」は，別に隠された内部ではないが，下の例では，「心の内」は本人が隠しているのに親が知っているのではないかと疑心暗鬼になっている秘密の場所である．

2-5. 「～うちに」

「～なかに」の所で見た場所的用法は，「～うちに」では非常に少ない．どれも外と内の対比意識，又はその境界意識のため「～なかに」では置き換えにくい場合である．

例 69) 「愚管抄」: 神武天皇からそのころまでの歴史を書いて，その底には歴史というものが末法の思想と自然のうちにひそむ道理によって動かされている，それが人の運命を左右するのだと主張している．(図説)

例 70) 高い熱にうなされ体の内に火が燃えているようだし，ねているところから 4～5 間

のうちに近づくと，熱くてたまらぬほどであった．(図説)

では，「～うちに」の文型はどの様な用法で多用されるかというと，「P の内部で，Q の変化が起こった(起こる)」という様な時に使われる．「P の内部」というのは例 71 の様に「P の状態の間」の場合と例 72「P の時間的範囲内」という場合がある．

例 71)　なおもぼんやりその絵葉書を眺めているうちに，彼女はとつぜん電撃を受けたようにある事実に思い当たった．(意外)

例 72)　下の表を見るとわかるように，貿易でも輸出が非常な勢いで増え続け，わずか四，五年のうちに三倍以上になるという好調さであった．(図説)

「P のうち」は，いつも P でないもの(外)を引きずって存在しているため，おのずと P と P でないものの境界線(つまり内外変化点)が意識されるようになり，例 73, 74 の様に「P の状態が変わらない間に(変わる前に)」，「P の範囲が終わらない間に(終わる前に)」の様な意味で使われるようになる．そして，例 75 の様に「その内外変化点に達する前に，Q をしたい，しよう，しなければならない，しろ(つまり何か内部変化を意識的に起こす)」の様な表現へ移行していく様に思われる．

例 73)　その S 課長の下で働くうちに真剣な恋愛関係が生じたのだが，二年もたたないうちに社内で二人の仲が噂になった．(秘密)

例 74)　すると，やっぱり映子は，昨夜のうちに誘拐されたのね．(意外)

例 75)　あすを待てば敵方には三浦の援軍がやってくるから，両面の敵と戦わねばならない．今夜のうちに，小勢の頼朝を追い落とそう．(図説)

「そのうちに」という表現も多数例見つかった．

例 76)　うん，そのうちに行ってみよう．(意外)

例 77)　だがそのうちに苦痛が，恐怖に先行するようになった．(意外)

これらの例は、明示されていない内部(範囲)が「ある時間的範囲を超えない間に(超える前に)」の様な漠然とした意味で解釈され，その範囲内での内部変化を表わす表現である[4]．

「～うちには」となっても，次例が示す様に上と同種の用法となり，「～なかには」の様な「ある範囲内に存在するある物を浮かび上がらせる」表現は存在しない．

例 78)　普通のサラリーマンだと，大体三か月もするうちにはこうした人脈の中に入ることができる．(秘密)

例 79)　さらに愛妻の死のすぐ後，少なくともその年のうちには剃髪して法体となっている．(図説)

---

[4] この項で，「変化」という言葉を二つの意味で使い，ややこしくなったので，ここで確認したい．「学生のうちに，たくさん旅行をしたい」という例では，内外変化という時は，「学生である状態(内)」から「学生でない状態(外)」への変化を意味し，内部変化というのは「あまり旅行をしていない状態」から「たくさん旅行をした状態」への変化を意味する．

2-6. 「～うちは」と「～なかは」

「～うちは」と「～なかは」も全く用法が異なる.「～なかは」は次の例が示す様な場所的用法しかない.

例 80) こうして同じ課の中は裏ではますますサブ・グループに分かれ，しかも表の付き合いでは何事もないような形式的な関係が続く.（秘密）

例 81) その城の中は華やかで力強い彫刻や絵画で飾られていた.（図説）

一方,「～うちは」は，状態の変化を表現する用法である.

例 82) たとえば，ある若い女性の患者は，他人が自分のなかにはいってきて，自分と他人との区別がつかなくなるという分裂病特有の症状を訴えていたが，彼女はある日の私との会話で「最初のうちは，お母さんが私の中にはいってきていた．それから，兄さんやお父さんがはいってきて，そのうちに家族以外の人もはいってくるようになった.（中略)」と語っていた.（フラ）

例 83) はじめのうちは，幕府はヨーロッパ人と貿易をしていました.（中略）しかし，キリスト教を禁止し日本人の海外貿易もしだいに制限するようになりました.（図説）

「それから，そのうちに，ようになった，しだいに」等の語句と共起して,「P のうちは，Q の状態だった(が，変化した)」という用法である．P に来るのも,「最初」や「初め」で代表されるような，そのものだけでは存在しえない相対的な語彙である．つまり,「最初のうちは」という時は，常に，最初でないもの(その後，今では，等)を意味的に影の様にひきずっており，P の内部の状態(Q だった)も，変化を前提としての状態と言えるだろう.

2-7. 「～うち,」と「～なか,」（後続助詞の現われない場合）

「～うち,」と「～なか,」の用法も全く違う.「～なか,」の場合は，状況要素となり,「で」か「を」の省略ではないかと思われる例もある.

例 84) テロが続く中，投票率 66.3%.（フラ）

例 85) 雨のなか，東京神宮外苑の競技場でおこなわれた出陣学徒壮行会は，悲壮な気持ちに包まれていた.（図説）

例 86) 場内，控室，音響，照明ブース，至る所が準備に騒然としている．そんな中，授業のある者はもちろん出席.（Vi）

「～うち,」の場合は，例 87, 88 の様な「に」か「は」が省略されたと思われる，上述した変化の表現が少数見つかるが,

例 87) いろいろ考えるうち，何かが生まれてくることはあると思いますね.（Vi）

例 88) だが，映子ははじめのうち，研究室という場所に対してある種の理想を抱いてい

た.（ゆが）

むしろ多用されるのは，次の様な用法である[5].

例 89） 大臣 14 名のうち女性は 5 名 （フラ）

例 90） 大学は全国に約 890 校あります．そのうち，国公立が約 180 校であとは全部私立です．(Ja)

例 91） 興福寺の僧兵が追ってきたので，親王はとっさに二つある経櫃のうち，わざとふたのないほうにかくれた.（図説）

例 92） エール・フランスでは再建計画のなかで，今後三年間で 2 千 800 人のパイロットのうち 15% を削減.（フラ）

これらは，「なか」の所で見た様な，複数の物で構成される範囲の中の，あるもの（ある部分）に焦点をあてる用法である．しかし，一点集中的で他の構成要素を全て無視した「なか」の場合と異なり，範囲内の構成要素が明白であるため，ある部分に光をあてることが，必然的に影の部分（光のあたらない部分）を作ってしまう．つまり，「うち」は「そと」に対しても対比的であったが，内部構造も対比的になりやすくできている.

2-8. 「～うちの」と「～なかの」

「P のうちの Q」という例文の特徴は，P（範囲）が明確に示されているために，構成要素の内訳がはっきりしていることと，Q に来るのも，数字であることが多いことである.

例 93） ついに 15 カ国のうちの 11 カ国で，1999 年 1 月 1 日からユーロが使用されることが，5 月 2 日，EU 首脳会議で最終的に決定された.（フラ）

例 94） 時期は 8 月初め，目標は，広島，小倉，長崎，新潟のうちの一つとされた.（図説）

「P のなかの Q」では，P はもっと大まかな範囲で，例え数字が現われても，もっとおおまかな数字である.

例 95） 12 世紀末近くに後白河院の蓮華王院（京都三十三間堂）宝蔵には多くの絵巻が収蔵され，その中の一つに「六道絵」があった.（図説）

例 96） 十数万点という宝物の中の一つに，らんじゃたいと呼ばれる香の木がある.（図説）

また，次例の様に，Q に不定詞が現われたりする.

例 97） たとえば，映子が日ごろつき合っていた男のなかの，誰かというようなことは...（意外）

例 98） ほのかな香に包まれて，生命力溢れる花をじっと見つめていると，弱っていた私の中の何かが呼び醒まされ，鼓動を打ち始めたのである.（Vi）

---

[5] これらは，「～うちの」の用法と非常に近いし，ひょっとしたら「の」の省略ではないかと思える様な例もあるのだが，ここでは，一応，別の用法として取り扱う.

例 99) すべての人々が大都会の群衆の中の無名の一人になり得る.(秘密)

「P のなかの誰か, P のなかの何か, P のなかの無名の一人」等という時は, P の範囲内のある物に焦点があてられているにも関わらず, それが不定で, つまり本質的に他の構成要素と区別できないおもしろい例である.「うち」の場合は, 何かに注目することは, 即ち明暗をつけその物を他から区別することなので, この様な用法は不可能なのだろう.

2-9. 「～うち」の結論

以上,「～うちで」「～うちから」「～うちを」「～うちに」「～うちは」「～うち,」「～うちの」を概観したが,「うち」の独立用法でも見られた「そと」との対比関係が共通の基盤として見られることがわかった.「うち」という言葉で仕切られた世界は,「そと」が無くては存在しえない世界である. つまり,「うち」と「そと」は, 繋がっているが, 別の世界である. そこで,「うち」の世界の独自性を語るためには, 境界線を明確に示さなければならない. その結果, 自ずと,「うち」の世界は「閉じられた, 秘められた」特別の世界になり, そのため, 内部構成要素も限定されてくる. 内部要素は拮抗しており, ある物に光をあてると, 必然的に他を影においやってしまうことになる. 言い換えれば,「うち」は動的であり, 変化を内蔵しているとも言える. そのため「～うちに」「～うちは」は, 変化の表現となり得るのであろう.

3. ま と め

最後に二語の類似点と相違点を整理しておきたい. まず表現が重ならないのは,「～うちは」「～うちに」の変化の表現で, これは,「～なかに」「～なかは」では存在せず, いずれも場所表現となる.「～うちに」の形で場所が現われる少数の場合, その場所は, 外と内の対比意識, 又はその境界意識が明白で, 秘められた場所である. これは「～なかに」の表わす場所が無色透明なのと全然違う.「～なかを」「～うちを」でも, 前者は無色透明な空間表現だが, 後者は「心のうちを」の様な秘められた場所のみと共起する.

「～なかで」と「～うちで」は, A (状況要素), B (範囲) の二用法を共有するが,「～うちで」の場合, A は秘められた空間となり, B は限定排他的な範囲となる. つまり,「昭和の作家のなかで」と「昭和の作家のうちで」を比べると, 後者には範囲の限定排他的なニュアンスがある.「～なかから」と「～うちから」も, 二用法を共有するが, 第一タイプでは, 前者は一点突出的な出現動詞, 後者では境界線を超えてあふれ出す出現動詞という違いがあり, 第二タイプで選択の範囲となる「～なかから」と「～うちから」では, 後者に限定排他的なニュアンスがついて回ること, 前述と同様である.

「～なか,」と「～うち,」も表現が重ならず, 前者は状況要素となり, 後者は範囲のなかのあ

る構成要素に光をあてて明暗を作りながら注視する表現である.

「P のなかの Q」と「P のうちの Q」は表現を共有するが，前者の P はおおまかな範囲であり，比べると後者の P は限定されている．前者では，Q は不定詞も OK なのに，後者では構成要素の Q にも普通数字の様に明確な物が来る.

以上見てきた様に，「うち」の内部世界は閉じられ，秘められ，境界線のはっきりした特別の世界であり，対するに，「なか」の内部世界は，境界線はあってもあいまいで，構成要素もはっきりしない静的な広がりで，一点に光をあてても，そこが焦点となるだけのことで，他への影響は見られない．その点でも，選ばれた構成要素とその他の様に明暗を作ってしまう「うち」とは異なる.

最後に，余談ではあるが，「うち」と「なか」の違いを論じながら，「は」と「が」の違いとの類似性が頭に浮かんだことを付け加えたい.

参 考 文 献

国広哲弥 (1978) 「時間接続表現の意味」,『国語と国文学』650，至文堂.
久野　暲 (1972) 『日本文法研究』，大修館書店.
日野資純 (1991) 『基礎語研究序説』，桜楓社.
牧野成一 (1978) 『言葉と空間』，東海大学出版会.
森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』，角川書店.
――――― (1996) 『意味分析の方法』，ひつじ書房.
渡辺　実 (1995) 「所と時の指定に関わる語の幾つか」,『国語学』181，武蔵野書院.

参考辞典

『岩波古語辞典』，岩波書店.
『字訓』，平凡社.
『国語大辞典』，小学館.
『日本語大辞典』，講談社.

出　　典

ゆが: 『ゆがんだ闇』，角川ホラー文庫.
意外: 『意外や意外』，講談社文庫.
図説: 『図説日本の歴史 1～5』，旺文社.
オヴ: 『オヴニー・パリの新聞』.
フラ: 『フランス　ニュースダイジェスト』.
Vi: 『Vine』，同志社女子大学通信.
秘密: 小此木敬吾 『秘密の心理』，講談社現代新書.
Ja: 『Japanese For Today』，Gakken.
広辞: 新村出編 『広辞苑』，岩波書店.
藤十: 菊池寛 『藤十郎の恋・恩讐の彼方に』，新潮文庫.